

作品 および 設置イメージ・説明・制作方法 ※台座のサイズも分かるように記入ください

作品の一部に工台の役割を担う部分を組み込むことで、「作品」と「展示台」という関係性にワザワザは工めたい。

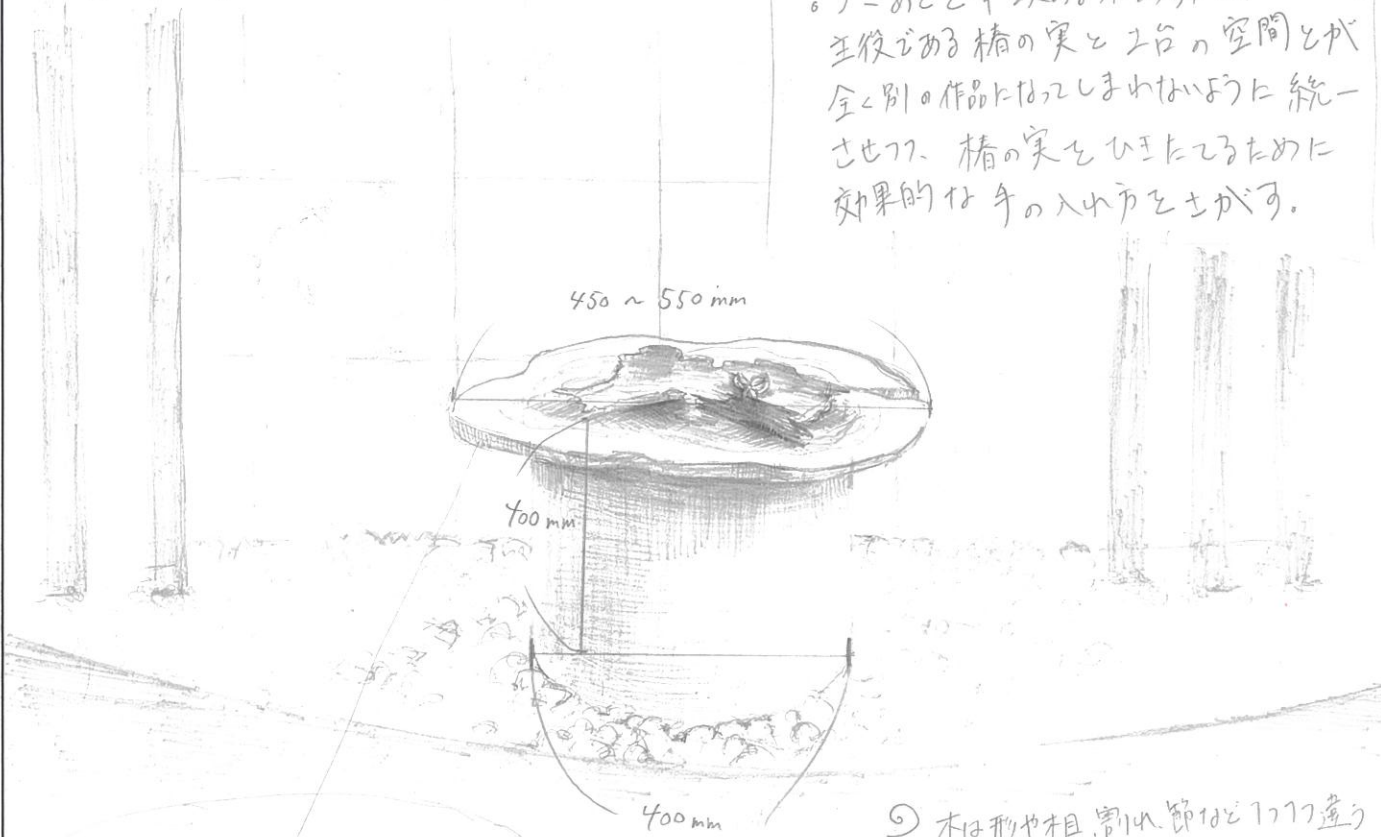
\*長期展示のための耐久力を付けるため、また、薄土に強度を付けるため、「木固めニス」を用いる予定である。場合により(色みなど)木彫オイルを用いる。と見つつ

(木の作品はそのまわりをホワイトキューブのよう展示台に置いて、作品とこの一点に視線が行かず、空間を見ることか、どまりのようは気がするのよ。)



○ 作品の中の「工台」とあたる部分は、端を薄くすることにより、作品と空間のつながりを、なめらかに見えるようにしたい。

○ ノミあとを筆致のようにつかひ、主役である椿の実と工台の空間とが全く別。作品に近づきたくないよう統一させる。椿の実をひきたてるために、効果的は身の入りをとせる。



展示台は丸い木71センチの工台、木を薄く切ったものをのせる。展示空間が全体的に白い印象なので、木の色みはやや薄いものを探す

○ 木は形や粗、割れ節などいろいろ違うので、使用する木は、イメージしているものと完成が違ってくる。そのようは自分でコントロールできる要素や、木に馴染みられている、という感覚を大切にしながら制作を進めていきたい。

作品名	うららかに			作品NO.	12				
素材	木			想定重量	15 kg				
作品サイズ	横幅	300	×	高さ	150	×	奥行	150	(単位: mm)

作品コンセプト

昔住んでいた家の横に綺麗な花を咲かす椿の木が生えていました、毎日見ていたはずなのに長い間私は、椿に実があることを知りませんでした。でも椿の実を見つけた時とても美しいと思いました。

モチーフとして椿の実を用います。

マンションのエントランスホールは住んでる人が毎日通る場所なので、鑑賞の対象としての作品であるだけでなく、生活、日常の風景の一部になるようなものにしたいです。

木の作品は、木が天然の素材であるためか、とても目になじむと思っています。着色などはせず木の色や、木目の美しさをのこし、また、ノミ跡を筆致のように表現として用いて、近づいて見ると見えたえのある、遠くから見てもまとまりのあるようなものにしたいです。

【過去の自分の作品】 ※画像や写真等を配置もしくは貼り付けてください

